

事例研究報告

特別支援学校小学部の児童に
要求や報告のコミュニケーションスキ
ルを教える

児童の実態

【対象児】

小学部児童

【障がい名】

知的障がい 広汎性発達障がい

【日常生活に関する実態】

- ・写真カードでのスケジュール使用(1度に4枚提示)
- ・発語はあるが、相手が言ったことを繰り返すことが多い。
- ・注意, 強い口調での指示で不安定になる(自傷, 他傷あり)
- ・称賛に対して意欲が出る
- ・食えることが好き
- ・手先は器用
(ポロシャツのボタンをかける, はずすことができる)
- ・簡単な身体模倣ができる

教員の考え

「困った時に自発的な言葉を教えたい」

「不安定な時の問題行動を減らしたい」



アドバイザーからの助言

- ・不安定になるときはどんな時かについて記録から探りましょう。
- ・負荷が軽い学習や活動の中で、「教えてください」の練習をしましょう。



指導目標の見直し

アドバイザーの先生から、負荷が軽い学習にはどんな方法があるのかを調べ、本児が好きな課題学習やお菓子の選択、フラッシュカードの中で知らないカードを混ぜておくなどの助言を受け、指導場面を設定するようにしました。

【指導目標】

- ①カードを見て「教えてください」と相手に聞くことができる。
- ②「できました」と伝えることができる。

指導方法1

【指導方法】

◎指導場面

- ・対面課題の時間

◎指導手続き

- ・20枚の食べ物カードを使用し、そのうち1枚を反対向きに入れる
- ・反対向きカードを机に置き「これなあに」と聞く
- ・5カウント待ち「お?」、「おし?」、「おしえ?」とプロンプトを出す
- ・1日に1回実施

指導方法1の記録方法と記録

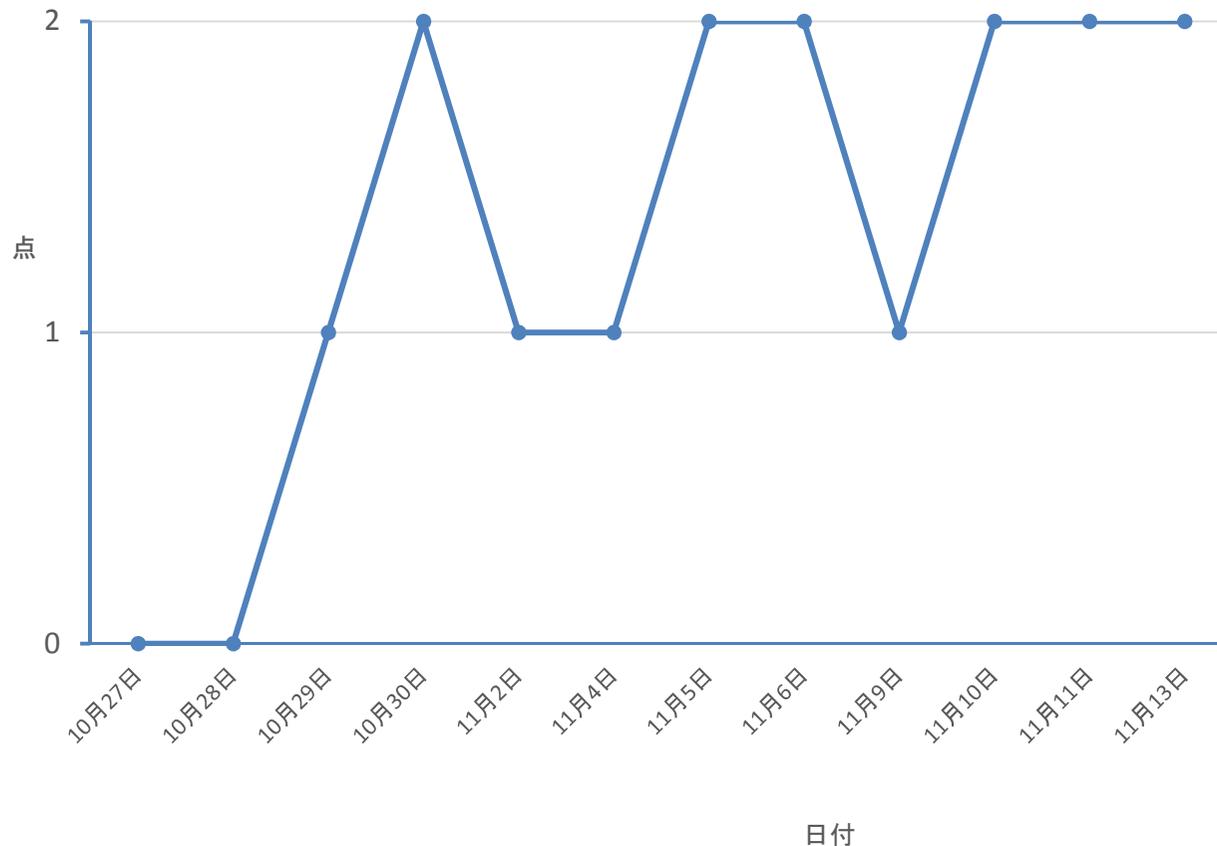
- 0点・・・教員の「教えてください」の後に言う。
- 1点・・・「お」「おし」「おしえ」のガイダンスを受けて言う
- 2点・・・カードを見て「教えてください」と自分から言う

指導方法2の記録方法と記録

- 0点・・・教員の後に「できました」と言う
- 1点・・・「で」「でき」のガイダンスを受けて言う
- 2点・・・「できました」と自分から言う

指導1の成果

野菜や果物の名前，食べ物（料理）の名前を次々覚えしました。「教えてください」と言え褒められることに対し，満足そうな表情でした。



結果1:「教えてください」の自発得点

指導方法2

【指導方法】

◎指導場面

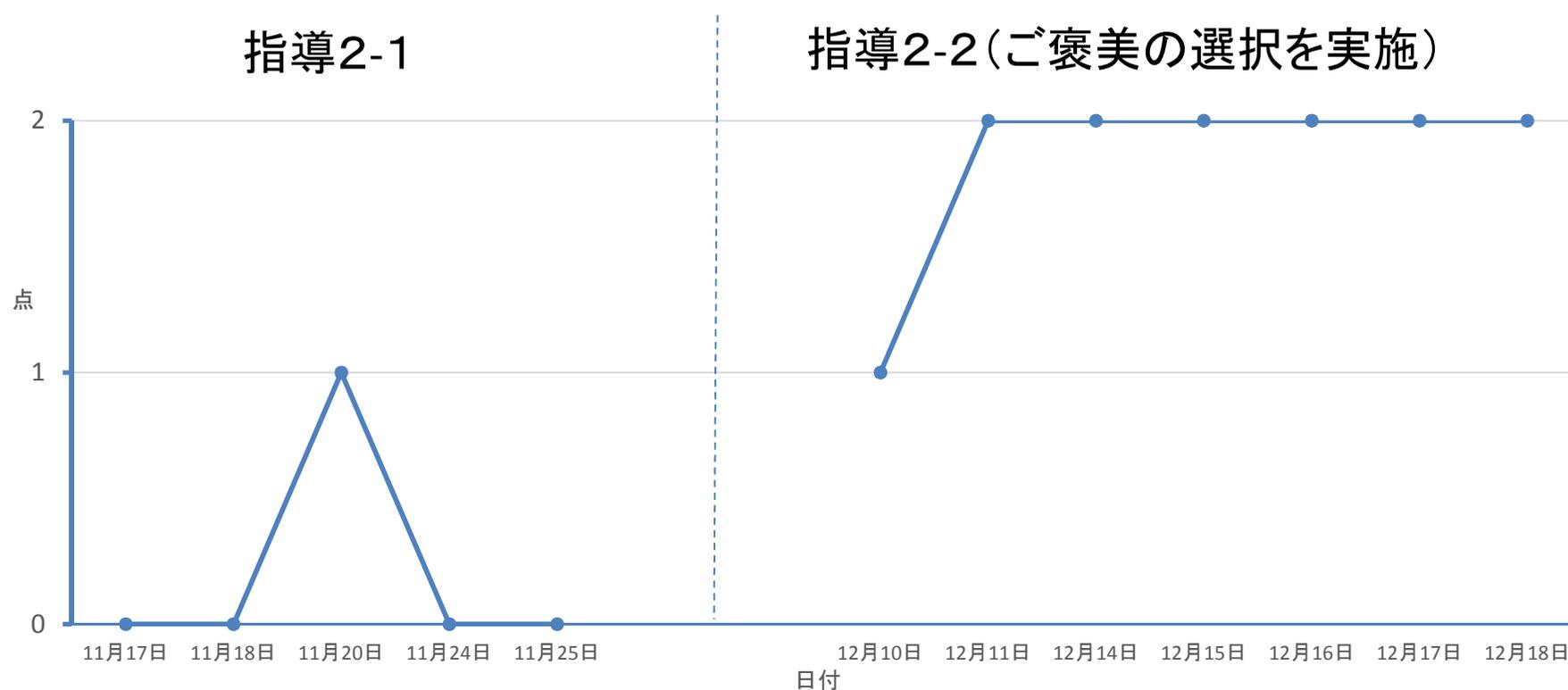
- ・自立課題の時間

◎指導手続き

- ・自立課題の3課題目のボックスに空容器をセットしておく
- ・1日に1回実施
- ・かごから空容器を手にとったら、本児の近くに立つ
- ・5カウント待っても何も言わなければ、「で?」「でき?」とプロンプトを出す
- ・「できました」と報告できたら、チョコレートと交換できるようにする。途中からチョコは選択式に変更した。

指導2の成果

ご褒美のチョコレートを気に入らないと投げるがあったため、一旦指導を中止しました。12月10日よりご褒美のチョコレートを3種類の中から選択して渡すようにしました。ご褒美は具体物での提示や選択が有効でした。



結果2:「できました」の自発得点

ここが成功のポイント



○般化場面が多い指導目標を設定したことで、着替え場面で「手伝ってください」と言い支援を求めることや、お茶のおかわりや調理実習中に「ください」と要求の言葉が増えつつある。

○ご褒美のチョコレートが有効であったことに加え、好子を選択できることが動機付けの向上につながった。